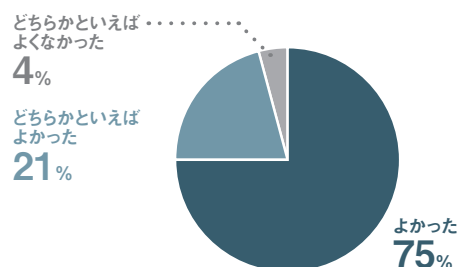


## 令和2年度参加世帯のアンケート結果

令和2年度に事業にご協力いただいた皆さまへアンケート調査を行いましたので、その結果を報告します。詳細は町のホームページに掲載しています。

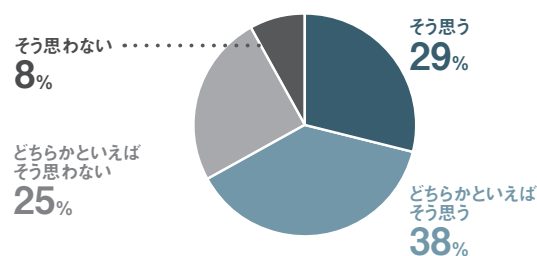
### 問1 ごみ減量化モデル事業に参加してどうでしたか？



#### 【ご意見の一部】

- ゴみの数量を記載し、目で確認する事で、増減がはっきりわかるので分別の意識が変わりました。
- 可燃ごみの中から一手間かければ雑がみとして出せるものもあることを実感できた。
- 明らかに、ごみの量を減らすことができました。意識を持って取り組むことは大切と実感しました。
- 初めは面倒でしたが慣れたらおもしろくなりました。

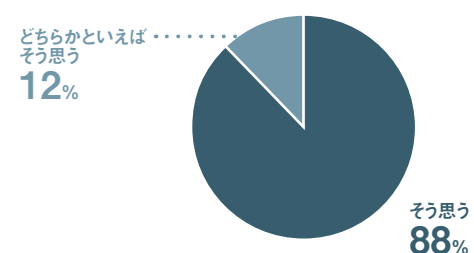
### 問2 生ごみや雑がみを分別することで可燃ごみを出す回数を減らせると思えますか？



#### 【ご意見の一部】

- 私は以前は週2回出していましたが、ごみ減量化に努め現在は1回になりました。やれば出来るのでは。
- 雑草や剪定した小枝等は出来る限り乾燥させてから出すようにすれば大きな減量化に繋がると思う。
- ゴみの量が減っても、臭い等はやすいので、収集の回数を減らしてほしい住民は多いと思う。

### 問3 ごみの減量化は、より多くの方が習慣化して継続して行うことで効果が表れます。今後も継続して行っていきたいと思われますか？



#### 【ご意見の一部】

- 広報等で目に入る大きな文字、色等でゴミの分別をしっかり行った場合、小川地区衛生組合に支出している金額を示すと効果が上がるのではないのでしょうか。
- 継続する事に意義が有り習慣化する事で日常が苦にならなくなります。
- 一人一人のごみの減量化によって、自分にとっても町や施設にとっても負担が減ると思うから継続します。

令和2年度のモデル地区の皆さまにおいては、前年同月比で約3割の削減実績がありました。ご協力への感謝として、協力世帯の皆さまへ「ときがわ町ごみ減量マイスター認定証」を贈らせていただきました。今後もごみ減量の先駆者としてご協力をお願いします。

## マイスター認定証



大倉千佳子様

今までも雑がみの分別を行っていましたが、事業に参加して分別に対して更に意識的に取り組むようになりました。今まで以上に理解が深まったと思います。今後も意識して減量を続けていきたいと思っています。



山下悦男様・洋子様 ご夫妻

お互いに役割分担をしながら現在も減量を続けています。分別は以前から続けていたもので苦にはなかったです。ごみを増やさないよう食品ロスにも気を付けていきたいですね。

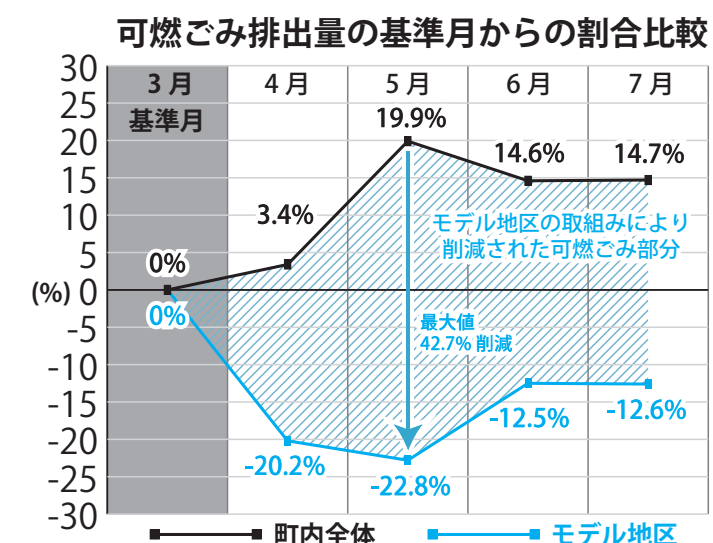
# ごみ減量化モデル事業 実施しています

ごみを削減して無駄を減らし、資源として活用できるものは活かしていくために、町内に先進地域を設置し、その効果を検証して町全体への取り組みへと広げていくことを想定して開始しました。

問 建設環境課 環境担当 ☎ 65-0814

## 令和3年度ごみ減量化モデル事業 参加世帯実績

今年度も第3期の取り組みとして、30世帯（仲井1区と馬場地区の各15世帯）にご協力いただいています。可燃ごみの排出量を、町内全体とモデル地区それぞれにおいて、3月を基準月として、基準月と各月を比較し、どれだけの割合が増減したのかを右のグラフに示しました。町内全体とモデル地区を比較すると、最大で**42.7%の削減**、平均で約**30.2%の削減**ができたことがわかります。



ご協力いただいている方から、「コロナ禍で在宅の機会が増えている中で、ごみの削減を行なっていくのは意識しないと難しい。」とのご意見がありました。増えたと実感するごみは、「生ごみ」・「マスク」・「ペットボトル」などが多く、ごみを減らすため、以下のことを今まで以上に意識して実施しているとのことでした。

- 「余分な食材を買わない」
- 「可能であれば生ごみの堆肥化」
- 「再利用できるものを選ぶ」

「意識して行う減量」に皆さまのご協力をお願いします。

馬場勝彦さん（馬場地区）  
コンポスト容器と畑で生ごみ処理ができていますので、「可燃ごみ」に出さずに処理できています。また、雑がみとして出す前にもメモ用紙を自作するなど、無駄を省くようにしています。

池田義明さん（仲井1区）  
雑がみを再利用するのに空いた段ボール箱を活用しています。また、雑がみとして出す前にもメモ用紙を自作するなど、無駄を省くようにしています。



雑がみが振り返らないように周囲を石などで保護しています。メモを自作中の池田さん。